

大内園長。園庭での遊びが充実してきた今、園舎の屋内・屋外空間をより活用できる方法を模索しているそうだ。

子どもたちの健やかな成長を願い、今年やっと、大空のもと、園庭での遊びを取り戻したすばる保育園。元気に

遊ぶ子どもたちの姿は、地域の人々にとっても、未来へとつながる希望となっているはずだ。

埼玉県ふじみ野市 亀久保ひまわり保育園 園庭は限りない可能性を秘めた「フィールド」

2015年4月、定員120名の大規模保育園として開園した「亀久保ひまわり保育園」。その園舎の裏手、物流倉庫脇に設けられた細い私道を抜けていくと、伸びやかな広場が現れた。およそ600㎡もの広さをもつ、亀久保ひまわり保育園の園庭だ。その一角に設置された6本足の登り棒と3段階の高さのある鉄棒、そして足こぎ自転車8台が、今回「待機児童対策・保育所等助成事業」の助成によって導入された新しい遊具だ。

小林倫子園長が「みんな、登り棒に上手に登れるか見せて!」と声をかけると、「いいよ!」と元気な声が応える。集まった6人の子どもたちは慣れたもので、靴下を脱いで裸足になり、全身

を使ってスルスと、上まで登って見せてくれた。最初に登りきった女の子は、棒のテッペンで、誇らしげな笑顔。遅れて登ってきた男の子も「ほら、僕だってできるよ!」と園長先生にアピールをしている。じつは繰り返し練習してようやく上まで登れるようになり、その姿を、早く園長先生に見てもらいたかったらしい。

隣の鉄棒では、女の子たちが逆上がり
の練習中だ。保育士の先生に励まされながら、一生懸命、地面を蹴り上げている。一方、足こぎ自転車に乗りた
い子どもたちは、備品倉庫の前で出
してもらいのを待ち構えていた。離れて
様子を見てみると、颯爽と自転車に跨
った子どもたちが、猛スピードでこち



●小林倫子園長

らに向かってくる。他にも、お友だちと走り回って鬼ごっこを始める子、縄跳びをする子など、広い園庭のなかで、たくさん子どもたちがのびのびと遊びまわっている。

「大勢の子どもたちが一緒に遊べるので、年長の子どもが小さい子どもに遊び方を教えてあげたり、遊びをサポートしてあげるような姿がごく自然に見られます。園庭での遊びを通じて、子ども同士で教えあい、成長しあってい



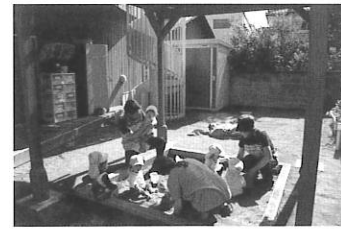
●大勢で一緒に遊べる広大な園庭



●園舎と園庭をつなぐ細い路地。秘密の通路のようなワクワク感も



●6人がいっせいに使える登り棒。足の裏も使い、上手に登っていく



左上●足こぎ自転車にまたがって競争する仲良し3人組
左下●園舎の外側にある園庭には、小さい子どもたちが遊ぶのに最適な砂場が設けられている
右●木の温もりを生かした園舎

るんです」

子どもたちの遊ぶ姿を笑顔で見守りながら、小林園長はそう教えてくれる。

園庭整備で「完璧な保育園」に

じつはこの園庭、2015年の開園当時には整備されておらず、もともとは園舎の外側に設けられた小さな園庭に砂場があっただけだった。しかしそのことが一部の保護者から問題視されることになる。そこには固有の背景があった。開園準備中、近隣の公立保育園2園が耐震問題で廃園になってしまったため、新設される亀久保ひまわり保育園が急遽、その受け入れ先になった。このことから、もともと公立保育園に通っていた保護者は困惑すると共に地域住民からも不安視されることに。そんななか何度も開催してきた説明会で、何より「園庭がない」ということが大きな問題になってしまったのだ。



●前転から逆上がり、足掛け回りなど、次々と難しい技に挑戦

「開園後は園庭が小さくても毎日のようにお散歩に出かけたり、室内でも子どもたちが十分にからだを動かして遊ぶ工夫をたくさん取り入れ、そのことは随時、ホームページやお便りで保護者の方々に伝えてきました。また当園にはバスもありますので、それぞれのクラスが毎月1回は(バス散歩)として、大きな公園に出かけています。これらのことがだんだんと理解されるようになり、開園年度の2月に行ったアンケート調査では私たちが驚くほど、保護者の方々に高い支持率をいただくことができました。地域の方から園庭用に土地を貸してもらえることになったのも、私たちの日々の活動を理解してくださったからだだと思います」

小林園長は笑顔でそう言って「園庭がないことは唯一の弱みでしたが、それも解決されパワーアップできました」と自信をのぞかせる。

地域からも信頼される保育園として

ところが広大な園庭を確保することができたものの、遊具を揃えるだけの予算がなかった。「そんな時、遊具のご相談をした事業者さんから今回の助成の話の話を聞きました。すぐに応募して、

職員みんなで祈るような気持ちで結果を待っていたんです。ですから決まった時には、みんなで飛び上がって喜びました」と小林園長。助成で導入した遊具に加え、運営する社会福祉法人えんが福祉会理事長の自費でジャングルジムが寄付され、2016年末に園庭の整備が完了。2017年1月には「遊び初め式」を行い、子どもたちへお披露目された。

「園庭が完成してそろそろ1年。目の行き届くエリアのなかで毎日安全に遊ぶことが、いかに子どもたちのからだを成長させるかを日々実感しています。また、充実した設備が整っているということは、保護者だけでなく、地域の方々からの保育園への信頼にもつながるとも感じています」と小林園長は言う。子どもたちがのびのびと安心して過ごすためには、地域から信頼される保育園であることはとても大切なことだろう。

その意味で、広い園庭を確保したプロセスは、保育園にとって、とても大きな出来事だったはずだ。そして、その園庭で元気に遊ぶ子どもたちの笑顔の明るさは、地域を活気づけるエネルギーにもなっているに違いない。